

事業所名

でいさーびす あいりんご3

支援プログラム (参考様式)

作成日

R7 年 3 月

15 日

法人 (事業所) 理念		<p>「楽しい・安心できる・使命感」をテーマに重点を置いています。 まず、楽しい気持ちを持つためには、同じ目線に立って自分も一緒に楽しむ。 次に安心できる気持ちを持つためには、もしも相手が自分の家族や友達だったらと思って接することです。 最後に使命感は、「自分だから」「自分しかできない」という気持ちをもって行動する。</p>		
支援方針		<p>①年齢層の近い児童同士の交流の促進 同年代の児童同士が自然にコミュニケーションを取る機会を提供し、集団活動や遊びを通じて一体感を生み出します。 これにより、児童同士が協力し合い、友達関係を築ける環境を整えます。 ②異年齢児童間の交流とサポート 上級生が下級生をサポートする異年齢交流を推進し、社会性や協調性を育む活動を行います。 異年齢の児童同士が協力し合う事で、リーダーシップや助け合い精神を学びます。 ③多様な障害に対応した活動内容の提供 児童一人ひとりの特性に合わせた多様な活動内容を計画・実施しています。 すべての児童が安心して参加できるよう、活動内容は柔軟に対応し、発達段階に合ったプログラムを提供します。 ④職員間での連携と個別サポート 職員間での情報共有を強化し、個別サポートが必要な児童に対して、きめ細やかな支援を提供します。 職員が連携し、一貫したサポート体制を築く事で、児童一人ひとりの成長を支援します。 ⑤保護者との連携強化 保護者との定期的なコミュニケーションを通じて、家庭での様子や児童の成長についてフィードバックを収集し、 家庭と施設での支援が一貫したものとなるよう連携を強化します。保護者と共に児童の成長を支える体制を構築します。 ⑥職員の研修とスキルアップ 職員の専門的な知識やスキルを高めるために、定期的に研修を実施します。 研修内容には、障害に対する理解やサポート技術、異年齢交流、個別サポートの技術を含め、 より効果的に支援ができるよう職員のスキルアップを図ります。</p> <p>◎この支援方針に基づき、児童一人ひとりに寄り添った支援を行い、安心して活動できる環境を提供します。 社会性を養い、児童の自立を促進するために、施設内外での活動を通じて多様な成長を支援します。</p>		
営業時間	9 時 0 分から 18 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし	
支 援 内 容				
健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや運動を通じて、自然と体を動かす機会を増やす。(リズム遊び、体操、屋外活動) ・月に一度の調理活動を通して、食育支援を実施。 ・バランスの取れた食事や水分補給の大切さを、ゲームやクイズ形式で楽しく学ぶ。 ・生活リズムを整えるために「リラックスタイム」などを導入し、心身をしっかりと休める機会を設ける。 ・定期的に手洗い・うがいの習慣を促し、感染症予防を徹底。 ・歯磨きや手洗いを習慣化するための「見本活動」や「ロールプレイ」を実施。 ・保護者とも連携し、日常生活の中で健康的な習慣が定着するよう支援。 			
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して運動を促す (ツイスターゲーム、バドミントン、鬼ごっこ、ボール遊び、ダンス、など) ・子どもの興味に合わせた活動を提供 (スポーツ、ダンス、ストレッチ、筋トレなど選べる運動メニュー) ・感覚を刺激する遊びを提供 (粘土遊び、シャボン玉遊び、スライム遊び、水遊び、砂遊びなど) ・体を動かしながら感覚統合を促す (バランスボール、ブランコ、平均台、タオル綱引き、) ・専門員による日常生活に必要な移動能力向上のための歩行訓練を実施。 ・感覚過敏な子に配慮した環境設定。 			

本人支援	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通じた学習支援（パズル、カードゲーム、クイズ、プログラミング的思考を育む遊び） ・五感を使った活動（ダンス、お買い物学習、ブロック） ・興味関心に沿った学び（好きなものをテーマにした図鑑作り、観察活動） ・一人ひとりの発達や理解度に合わせた学びのペースを設定。 ・視覚的支援を活用（スケジュールボード、絵カード、タイマーなど）し、見通しを持って取り組めるようにする。 ・日々の活動の中で役割を担う事で、成功体験を積み重ね自信へ繋げる。 	
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールや約束などを絵や絵カードを使っての視覚化。 ・個別での支援が必要な子への気持ちのコントロールサポート（感情カードを使い、自分の気持ちを理解・表現する練習）。 ・社会で役立つ行動スキルを育てる（挨拶、順番を守る、身の回りのことを自分でやる）。 ・ことば遊びを通じた学習（しりとり、なぞなぞ、絵本の読み聞かせ、かるた遊び） ・コミュニケーションスキルの向上訓練。 ・個別または小集団での障害の特性に応じた読み書き。 	
	人間関係社会性	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちに寄り添いながら、一人ひとりのペースを尊重。 ・チームワークの促進を図るため、協力して課題に取り組む機会を提供。 ・役割を持って活動する機会を増やし、責任感や主体性の向上を図る。 ・地域交流イベントに参加し、模擬店の運営を手伝う事で社会性を身につける。 	
家族支援	<ul style="list-style-type: none"> ・家族が安心して相談や要望を伝えられる環境を整え寄せられた申し入れには速やかに対応する体制を構築。 ・発達状況や興味、関心、得意、苦手を把握しながらサービスのプログラムを柔軟に調節。 ・更にご家族からのフィードバックを大切にしながら支援内容を見直し、一緒にお子さまの成長を支えられるよう努める。 ・日々の様子や成長、変化を具体的にフィードバック。 	移行支援	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手な事にも意欲を引き出す声掛けをする事で成功体験を積み自信に繋げる。 ・自己覚知（自分の好きな事を見つけ自分に合ったストレス発散法を知る。） ・ソーシャルスキルアップ（コミュニケーション・想像力・応答力・表現力） ・就労体験で将来やりたい事を選択肢を広げる。 ・整理整頓など自分の持ち物の管理ができるよう訓練。
地域支援・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と密に連携を取り、支援の統一を図る。 ・地域の機関や社会資源などの情報を家庭と共有。 ・地域と関わりを持つ事で障害への理解を更に深めてもらいより住みやすい環境を作る。 	職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員同士で学び合う社内研修 ・外部研修への参加促進（発達障害、感覚統合、行動支援、虐待防止、家族支援など）。 ・「支援のプロ」としての自覚を高め、専門性を深める環境を整備。
主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> ・初詣・節分・花見・運動会・遠足・ハロウィン・クリスマス会・全事業所合同活動など 		